

大正四年十一月分

機關部戰時日誌

第一編 戰時日誌

1334

十一月一日(日)曇海上稍波高レ正午位置大公島北方

福州丸午後七時佐世保ヨリ勞山灣着

周防石見トライアンロハ午前八時半勞山港外ニ假泊日没前前日ノ通り速退

勞山灣方面波浪高ク載差頗ル困難ナリ

小笠原丸ヨリ右差請ホアリタルニヨリ艦隊ノ給差ヲ阻害

セザル範圍ニ於テ便宜ニ給差船ヨリ第二種炭一〇〇噸供

給之キ旨勞山灣ニアル第四戰隊司令官ニ電命ス

威海衛ニ四船ノ暇ナキヲ來三日英駆逐艦「アズラ」ニ英

炭一〇〇噸供給ヲ可キ旨第四戰隊司令官ニ電命ス

十一月二日(月)曇海上稍波高レ正午位置大公島北方

三池丸佐世保ヨリ勞山灣着直勞山港ニ面航セト

周防トライアンロハ午前八時勞山港外ニ假泊日没前前

日ノ通り避退

勞山灣ハ波高ク炭水補充金ヲ不可能トス

利根交流機故障發信不能トナルタノ午歲ト交代勞山

灣ニ歸港關東丸ヲレテ修理セシム

十月三日 天 曇 海上荒 正午位置 勞山港外

國防及トライアンロ午前八時勞山港外ニ假泊午後二時勞山

灣ニ向フ

本日又風波大ニレテ載炭ヲナス能ハズ

英驅逐艦「アヌ」ニ明日勞山灣ニ於テ便宜ノ給炭船ヨリ

第一種炭一〇〇トン供給可キ旨利根ニ電命

十月四日 天 曇 海上荒 正午位置 大倉島北方

前日來ノ天候尚恢復セズ交通金ヲ杜絶補給作業殆ン

ト中絶ス

明石、劍山丸ヨリ載炭セントセシモ危險ナクノ中止
 英驅逐艦「アスク」ニ第一種煉炭一〇七噸供給（劍山丸）
 用防午前六時三十分出勤大公島北方ニ於テ假泊
 二日以來天候不良ニシテ炭水補充中絶セシモ漸ク恢復
 ノ見エ主クタンタノ驅逐艦、掃海船等ノ炭水缺乏甚クシ
 カル可キヲ慮リ給炭船ハ出來得ヘ限リ、撈山港ニ止メ置
 カルタメ宇佐、明石ハ撈山港ニ回港炭水補充ヲ可ク又能
 野丸ニモ明早朝ヨリ驅逐艦炭水補充ヲ開始シ尚今艦
 補給用トシテ搭載セシ第一種炭ヲ驅逐艦下ニ供給スル
 今時ニ極力同方面ニ於ケン載炭事業進捗ヲ計ル可ク尙
 命ス
 杉江ニ明早朝「アスク」附近ニ回航掃海隊ニ炭水ヲ供給奇
 ク電命尚明日福州丸ヲ同方面ニ送り嵯峨及再録ノ

海

軍

擇海艇ノ燃料補充ヲナサレムコト云

十月五日 (木) 墨海上和 正午位置 勞山灣

周防勞山灣ニ於テ燃料補充

十月五日 (金) 墨海上和 正午位置 大分島北方

松江勞山灣ニ向航載炭

三河丸佐世保ヨリ來着

周防午前之時三十分出動大分島北方ニ至リ假泊夕刻

勞山灣ニ帰港

十月七日 (土) 墨海上和 正午位置 勞山灣中

周防午前之時三十分出動勞山灣中假泊夕刻帰港

午前 時中央堡壘^墨ヲ占領次テ「ビスマーク」モントケ^砲

臺ヲ占領其他ハ白旗ヲ掲ケ午前九時敵軍使ヲ送リ

來リ開城ヲ申述ム

十月八日 (日) 晴 海上和 正午位置 勞山湾

十月九日 (月) 晴 海上稍荒 正午位置 勞山湾

劍山丸 正午佐古保之向ヶ出港

第七十五號艇掃海ヲ終レ勞山湾ニ帰港シ途午後

時フオートポイント止ノ沿岸ニ攔壁レ離礁スルヲ得シモフス

リニードラ折損シ推進器翼ヲ屈曲后航ヲ海中ニ墜

落勞山湾ニ避泊天候稍静隱ナレ航行ニ堪スルモ役務

ニ差支アズ旨報生ニ接ス

十月十日 (火) 晴 海上和 正午位置 勞山湾

八日軍務局ヨリ照會ヲ對スル調査ヲ去有ノ幕僚ニ部

及關率丸指揮官同工作部長青島視察ノ多ク出港

福州丸八揚丸佐古保ニ向ヶ出港

第三十三號水雷艇掃海中午后一時半機雷觸シ燃滅

海軍

室ヨリ后部ヲ爆破セシレ第百十號艇ニ破カレ浮山所灣
ニ欄壁セレメントル時沈没

十月十一日

(水) 曇海上和 正午位置 勞山灣

青島視察全部帰着状況ノ概要左如シ

敷設隊構内ノ機關工業場ハ汽艇中修理等ニ充分ナル設
備ヲ有ス

大崎ニアル造船所ニ夥シク各種ノ材料ヲ貯藏シアリ

製鐵、鍊鐵等ノ工場ハ其供テモ機械工場ノニ全ク

破壊セシレ居リ又大起重機ハ根元ヨリ折損海中墜

落シ浮船渠ハ底部ヲ破壊シ沈没セシメモ、如シ又

同構内ニハ約三千五百噸ノ石炭ヲ有ス

發電所々二本ノ煙突ノ中一本破砕碎ノ多ク中央部ヨリ折

損シ又事務室等全ク破壊セシレ居ルモ機械及艦六

外見上何等ノ被害ナク唯「パホル」一部ヲ破壊セルニ過
キテ全カノ約二分一ヲ發生スルニ左迄ノ工事ヲ要セシ
臺西鎮附近ニ石炭置及棧橋等ナシ

水船搬炭船等トシテ用ヲ可キモノナレ

第九艦隊午後五時旅順ニ向ケ發

熊野丸乗組中職工全部工廠ニ復歸セシム可キ旨電

訓ニ接ス

十一月十二日(水) 臺海上和 正午位置 勞山灣

十一月以降當方面ニ必ス残留セシメラル可キ甲乙掃海隊用

防禦材料トシテ古毛布二十四枚(各艇ニ二枚宛)藁二十四

把(各艇ニ二把宛)便アリ次第送ルニ掃佐鎮考謀長ニ

照會シ右以外ニ残留セシメラル可キ艦名ハ報アリ復旨

軍令部長ニ打電

若宮丸佐世保發着方面ニ向フ

十月十三日(金)雨海上荒

正午位置

勞山灣

辨天丸勞山灣着

大海機密第一八三號軍令部長ヨリ

第十三駆逐隊ハ近日編制替トナリ朝潮白雲ハ馬公ニ陽

空ハ第三駆逐隊ニ村雨第四駆逐隊ニ編成セシメラレ

突ニ付可成速ニ佐世保帰還セシメラレ様取新ハレタレ

字法大正二年三月以來第三艦隊ニ編入以來引續キ戰

役ニ参加シ連續行動セシ寫ノ船体各部ニ緩ミシ生

レ殊ニ船軸衛帶部及機倉部ニ於テ甚タシク漏水スル

ニ付入渠修理ヲ要スル旨報告アリタルニ付佐世保ニ回航

セシムルコト、云

去日附三池丸、劍山丸、梅丸、三河丸、役務及所屬ヲ解カレ

第九驅逐隊、行動豫算消費品金銀殘産或八圓貳
壹之減額

十月十日(土)曇 海上和 正午佳置 勞山湾

明石旅順ニ向ケ第十三驅逐隊佐佐保ニ向ケ勞山湾發

三池丸勞山湾着

十月十日(日)曇 海上和 正午佳置 勞山湾

宇佐佐佐保ニ向ケ勞山湾發

若宮丸勞山湾着

本日午前八時ヨリ驅逐隊、警戒ヲ取去

大海機密第九。號軍令部次長發電

十月一日以後ニ於テ要港部ニ警隊ヲ岨岨、宇佐、掃

海隊全部ヲ強シ尚關東丸、熊野丸迄掃丸モ一時強留

セシムル所定ナリ

十月十七日(月)晴海上和 正午佳置 勞山湾

第七十五號水雷艇修理ノ多ク旅順ニ向ケ發

武州丸佐世保ニ向ケ發

大海機密第一九〇號ニヨリ十月一日以後各方面ニ殘留セシメ

テ可キ宇佐岨岨能野丸關東丸及浚橋丸用防禦材

料トシテ古毛布二百四十枚藁蓆百八十枚藁索繩七十七

把送付佐鎮考謀長宛打電

十月十七日(天)晴海上和 正午佳置 勞山湾

昨夜防禦材料ニ關スル照會ニ對シ左ノ通り返電アリ

三池丸ニ毛布一九八枚藁索繩九〇把藁蓆八七枚把送シアリ

依テ全船ニ就キ調査セルニ周防石見能野丸秋津洲宇佐

ノ分トシテ前記數量到着シ居ルヲ以テ左ノ通り配布

セム但シ宇佐ノ分ハ同船佐世保ニ帰航シタム上直捷全艦

ニ交付セシノ猶嵯峨八目下哨區ニ出動中ニ就キ轉天丸 ニ依托セシム	
船名	古毛布(一) 藁葎(一) 藁葎(一)
宇治	一〇(一〇) 一〇(二五) 二(三)
嵯峨	一〇(一〇) 一〇(一〇) 〇(一〇)
關東丸	七七(一〇〇) 一八(二〇) 二九(三三)
熊野丸	七七(一〇〇) 一八(三〇) 三〇(五〇)
淡橋丸	一〇(一〇) 一〇(一五) 二(二)
甲掃海隊	一三(一三) 一三(一三) 一二(一三)
十一艇隊	八(八) 八(八) 八(八)
十二艇隊	四(四) 四(四) 四(四)
右中括弧内ノ數量ハ量儀ニ當報ヲ以テ佐世保鎮守府 ニ請求セル數量ヲ示ス	

尚軍叢ニ關東九ノ供給ト得ル防寒材料ノ照會ニ對シ左ノ如キ返事アリ

「過日相註ノ防寒材料トシテ本船ヨリ供給シ得ルモノ左

ノ通り

石綿漆喰 九〇キロ

藁 繩 一〇〇把

フエマーノートノ貯藏セズ

浮標撤収ヲ了リ昨夜入港セル汽橋九浮標ニ何ヲ候

キ帰港ノ途一個ノ浮標切斷ノ多ク之ヲ收容セシトシテ

右途中懸垂推進器ニ衝突一翼ヲ根元ヨリ折損セル

旨報告アリ依テ調査セシメタルニ十里内外ノ遠カニ於テ

艦部ノ機軸箱甚クシク且軸ノ回轉ニ伴ヒ機軸軸系

左右ニ二〇ミシ位宛動搖セシメテ將來ノ作業ニ多大ノ影

響者ヲ及ホス可キヲ確認セルヲ以テ不取敢佐世保ニ回航
セシタル上完全ナル修理ヲナシタルコト、シ猶出港前
一應關東丸潜水夫ヲシテ他ノ習熟ニ缺損ナキヤラ確認
セシタルコト、シ必要ノ向ニ其々電報照會ヲナス

上月十八日(水) 曇 海上和 正午位置 勞山灣

艦政本部第二部長ヨリ左ノ電報アリ

十五日以後行動需品及之ハ豫算内ヲ以テスルコト
十九豫算ハ后ヨリ配布ス

梅丸佐世保ニ向ケ出港

上月十九日 (水) 曇 海上和 正午位置 勞山灣

關東丸ヨリ淀橋丸推進器缺損ノ状況ニ関シ左ノ後號
アリ

淀橋丸推進器報告ニテ送ル同推進器ハ新造ヲ要

及レ同船ノ「ウインド」ヲハ嘗テ本船ニテ一時修理セ
ルコトアレドモ此際更ニ修理セシメラル、方宜シカラス。

捕同船ヨリノ報告ニ依ル時々推進軸ノ屈曲及他ノ三翼
ニ罅裂等ヲ認メテ普通航海ニ差當ラズ差支ナレト
認ム又折損セシモノ已ニ前ヨリ罅裂アリタリモノ如ク破折
面一部黒色ヲ呈シ居ルト云フ依テ沖島ニ護衛艦ノ
厚連八郎ヲ以テ明日午後佐世ニ向ケ出港セシムルコト
ナリ通リ行勤豫算減額

第士駐屯隊 重由三二七トシ(以経常部一九六トシ事件費)

(一三二トシ)

利 根 重由三一九トシ(以経常部五四トシ事件費)

(一五五トシ)

沖 島 石炭一九八トシ(全部事件費)

上月二十日(金)

正午位置第山港

水雷戦隊(第十三駆逐隊缺)最上、沖島、見島、三池丸佐

世保ニ向ケ出港

掃海隊及松江ニ炭水及糧食補給、多辨天丸ヲ第山港

ニ回航セシム

乙掃海隊ヨリ豫算残額報告アリタルニ付左ノ通り概報

乙掃海隊 石炭庫冬五九五トシ(全部事情量)

上月二十日(土)晴海上和 正午位置第山港

掃海隊各艇清水不足ノ多ク廣く掃海官ヨリ左電アリ

一(午位一時三十分受)明後二十日松江掃海隊用トシテ水ニ

百トシラ要ス給水船一隻早朝第山港ニ廻航方取計

ヲハレタレ(目下右方面ニ運送船ナキト返電)

二(午位三時受)甲掃海隊ノ給水給食辨天丸ハ今夜第山

港ニ留ノ明朝賣地ニ向ハシムコトニシタレ(差支ナキ旨
返書)

佐佐木参謀長先左ノ通リ打電

武州丸ニ清水ヲ満載シ速ニ出發セタマレタレ

午後五時五十三分多沖島發着淀橋丸其後ノ状況報告

左ノ如シ

淀橋丸ノ状況昨夜土時迄速力八哩以後五哩ヲ航行

墨山島迄此ノ速力ニテ以後八哩ニテ繼續スル見込アリ

墨山島ノ

十月二十一日(日)晴海上和 正午位置 笠山灣

佐佐木参謀長ヨリ左ノ電アリ

武州丸ニ青島要港部隊備隊用ノ軍需品等ヲ搭載

中ニテ直ニ出發シ難クニテ午前出發ノ豫定ニ付悉知

置アリタシ	依テ今朝勞山港ヨリ帰港セル 辨天丸ヲ本日午右生港 旅順ニ回航セシノ清水ヲ補充セシムルコト、シ猶差アリ明 日松江ヲ勞山港ニ回航セシノ 熊野丸ヨリ補充セシムルコト、 ス	午前七時沖島發電左ノ報告アリ	今朝之時ノ佐置里山島ノ北西四分ノ三北一三哩佐橋丸 異状ナレシヨリ豫飛込ノ速力ニテ航行ス	辨天丸正午旅順ニ向ケ發	十月二十三日(月)晴海上報 正午佐置 勞山港	第五驅逐隊官島ニ向ケ發	沖島佐橋佐世保着	聯合掃海艇隊解隊 午前十時勞山港着各本艦ニ帰ル
-------	---	----------------	--	-------------	------------------------	-------------	----------	-------------------------

土月二十四日(火)晴海上和 正午位置 勞山湾

第四隊司令官千歳村津洲ヲ率ヒ 勞山湾發信世

保之向

土月二十五日(水)晴海上和 正午位置 勞山湾

武州丸若宮丸勞山湾ニ向ケ佐世保發

土月二十五日(木)曇海上荒 正午位置 勞山湾

松江午前六時三十分佐世保ニ向ケ勞山湾發

清水受入ノ多ノ旅順ニ面航セシ 韓天丸勞山湾帰着

彼高キタノ若水補育ヲ子ニ能ク云

土月二十七日(金)晴海上和 正午位置 勞山湾

修理ノ多ノ旅順ニ面航セシ 第七十五號艇 勞山湾ニ向ケ旅順

發

若宮丸勞山湾着

十月二十八日 (土) 晴 海上和 正午位置船海中

武州丸 芳山湾着

午前九時 (中央標準時) 周防石見ヲ率ヒ横濱賀ニ向ケ

芳山湾發

午後八時ヨリ十二時間編隊行走成績報告ヲ方上

十月二十九日 (日) 晴 海上和 正午位置船海中

引續キ船海中記事ナシ

十月三十日 (月) 晴 海上和 正午位置船海中

午前八時 釣嶽崎南三哩ニ於テ午歲初根來會

宇佐出凖最上入凖

